

2022年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2023/9/29

<p>団体名</p>	<p>一般社団法人ヒガシミノ団地</p>	<p>活動タイトル</p>	<p>地域課題の解決と地域資源の活用を行い、地域コミュニティ形式と新たな価値の創出を図る活動</p>		
<p>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>			<p>■活動風景</p>		
<p>●地域の望ましい社会状況(ビジョン)</p>	<p>当団体の実現したい社会状況（ビジョン）は、非営利組織・地域住民・企業・学校など多種多様な主体が、自助・共助・互助などの関係性で多機能拠点運営や新たな時代の公共サービスを担うことが、今後構築される望ましい社会状況です。具体的に弊社の例をあげると、飲食事業・宿泊事業などの利益の一部を地域に還元するために共助・互助の関係性で今回申請している事業などを構築されるネットワークや自主財源で継続実施していくことです。</p>		<p>活動風景①</p> 		
<p>●団体の社会的役割(ミッション)</p>	<p>当団体の社会的役割（ミッション）は、行政に代わる新しい公共サービスの担い手になることです。具体的には以下のようなサービスを提供しています。</p> <p>①教育事業 STEM教育の提供の場づくりや、地域と連携した域学連携の学びの機会の創出を行い、地域内の子供たちに平等な学びの機会と多様な相手と関わることで身につくコミュニケーション能力の向上に努めています。</p>				
<p>●団体の活動基盤</p>	<p>当団体が上記社会的役割を十分に果たすためには、以下のような活動基盤があることが理想的である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●望ましい人的資源：事業のマーケティングからファンディングまでを管理でき、プロジェクトを運営できる中核人材が1名常勤スタッフとして新たに加入し、そのももて2名のスタッフが活動している。 ●望ましいリソースの確保：フードバンク・フードパントリー事業での食支援活動における支援物資が、企業や他団体・助成などを受けて定期的に開催できる程度安定した資源があること。 				
<p>■活動報告</p>			<p>■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>		
<p>子ども食堂：継続的にサービスとして、高校生・大学生などの様々な主体が参画して、ひとり親の方々を中心とした子どもたちへの食事や居場所のサービスを提供することができました。学生ボランティアとして参画した子が中心となって企画等も考えてもらうことができるようになり、企画に参加する子供たちも学校が違うのに友達になり、横の繋がりや家や学校ではない場所ができたことで同世代の他学校の子や大学生・高校生・社会人などの多様なコミュニケーションに触れられる場所になったと感じています。</p> <p>フードパントリー（お弁当）：事業を始めた時には4世帯くらいのご家庭に細々と始めていたフードパントリーも継続したことで認知され今では13世帯ほどにサービスを提供しています。参加してくれている子どもたちについても、フードパントリーを非日常として楽しみにしてくれている様子ができたことで、申し訳なさそうに貰いに来るのではなく楽しみにしてもらえる雰囲気とサービスになったと実感しています。</p> <p>フードパントリー（支援物資）：市内で初めて支援物資を届ける活動を開始できたことで、利用者から非常に喜ばれている。</p> <p>運営：継続的に実施できたことで、ノウハウとスケジュールなどのマニュアル化ができた</p>			<p>子ども食堂：多様な相手と関わりコミュニケーションを楽しめる子供食堂及び学習支援の実施については合計26回実施し、延べ参加人数は314名となりました。</p> <p>フードパントリー（お弁当）：ひとり親世帯を対象とした子供との対話の時間確保を目的としたフードパントリー（お弁当）については合計48回実施し、ひとり親の方々へのアンケート調査にてゆとりが生まれた時間についての回答が13世帯中10世帯の回答で60分以上が10%、60分が60%、45分が10%、30分が20%となりました。</p> <p>フードパントリー（支援物資）：生活困窮世帯及びひとり親世帯に向けたフードバンク及びフードパントリーの実施についてはイベント実施ではなく毎週配布することで合計26回実施しました。これにつきましてもアンケート調査より13世帯中10世帯の回答でフードパントリーにより心のゆとりが生まれたとの回答が100%でした。</p> <p>運営：事業運営マニュアル及び広報用資料の作成については、トライ＆エラーを繰り返しながら毎回どのようにしたら効率的に、スケジュール管理もできるのかを話し合い毎月の流れをマニュアル化できました。</p>		
<p>■事業を通じて得られたノウハウ</p>			<p>■望ましい社会状況を達成するための課題</p>		
<p>①お弁当の無償提供や支援物資配布を毎週月曜日にサービスとして継続提供をすることができるようになり、学習支援や子供食堂も毎月2回ほど継続実施ができるようになった。</p> <p>②岐阜県の社会福祉協議会などや外部の支援を行う団体との連携ができ、支援物資などについても毎週お弁当と一緒に配ることができたことから、倉庫などの支援物資を保管する場所も必要性もなく、連携などもどの様にしたいのか把握できたので、ほかの子ども食堂をしたいと考えている人に対してノウハウを提供できるようになった。</p> <p>③ひとり親の方々とのコミュニケーションの取り方や何を感じたり、どのようなサービスが喜ばれるのかなどをコミュニケーションの中で得ることが出来き、支援物資などを提供する方法についても検討し、イベント的ではなく隔週提供できるなどどのように活動をしたいのかの知見が得られた。</p>			<p>①当初行政に相談に行ったときにはそこまで受益者（ひとり親の方々）はいないのでは？といわれたが実際に活動してみると1年間で13世帯の方々がサービスを利用することになり、今後も毎年増えていく（子供が大きくなるまで）ことが予想されるためこうした取り組みの重要性と課題に改めて気づきました。</p> <p>②弊社が中津川市にて支援物資を初めて配ることができましたが、実は受益者（ひとり親の方々）の一手前までは支援物資などをきているのに、それをつなぐ最後の場所（子供食堂やフードパントリーのサードプレイスを行う団体）がないだけで社会福祉協議会などが支援物資を届けられていない実態があることが課題だと把握しました。※公共では特定の方々への配布は公平性の観点からできないため、弊社のような団体が必要。</p>		
<p>■活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>			<p>この1年間の活動を通じて</p>	<p>中津川市で初めての毎週お弁当及び支援物資・学習支援を継続実施し、無償の食事提供を延べ約300名</p>	<p>を達成しました。</p>
<p>■受益者の具体的な変化（自由記入）</p>			<p>フードパントリーや子供食堂においてコミュニケーションが増えた（スタッフや子供同士の会話がフラットで和気あいあいとしている）</p>		